2018

Annual Report

フィリピン　カオハガン島

Japan Dental Mission

NPO法人ジャパン デンタル ミッション

Contents

代表理事挨拶 1
活動地紹介 2
海外活動報告 4
　ヴァヌアツ共和国ペンテコスト島 4
　フィリピン共和国カオハガン島 10
国内活動報告 23
国際理解教育～ヴァヌアツ学習を通して～ 25
海外活動参加者感想文 28
2019 年度 海外活動予定 38
ジャパン　デンタル　ミッションについて 39
協力者名簿 40
役員紹介 41

代表理事挨拶

代表理事　沢田　宗久

平素よりジャパン　デンタル　ミッション（ＪＤＭ）に御支援を賜り厚く御礼申し上げます。今年度は、世間では「平成最後の・・・」というフレーズが各メディアで話題となり、現天皇の退位の年であり、節目の１年でもあります。ＪＤＭも節目の１年で、ヴァヌアツ共和国（以下、ヴァヌアツという）では、新しくペンテコスト島での活動が始まりました。

ヴァヌアツは、現在ヴァヌアツ国家開発計画（２０１６年－３０年）として「社会」、「環境」、「経済」の３つの柱の下に持続可能な開発目標が設定されています。ＪＤＭは、この国家開発計画の中でも保健医療サービスの向上の一端を担うべく活動を続けており、ヴァヌアツ保健省からも高い信頼を得ています。ペンテコスト島での活動もヴァヌアツ保健省からの熱い要望があり、たくさんの方々からの協力を得て実現しました。これも３６年間ヴァヌアツでの活動を継続することができたからだと考えています。

１９８３年から、マレクラ島で活動を始め、その後タンナ島で１７年の活動を行い、保健省の要望により、２０１８年７月からバンジージャンプで有名なペンテコスト島で活動を始めました。

今回、宮崎放送の依頼により、ムービーを作成し、ＢＳ放送とＹｏｕＴｕｂｅ動画も放映されました。

フィリピン共和国カオハガン島（以下、カオハガンという）では３月の活動で５４回目の活動になり、カオハガンの所在するラプラプ市の市長から表彰のセレモニーを開催して頂き、感謝状を授与されました。またカオハガンのオーナーである崎山克彦氏からも感謝状を頂きました。これも皆様の御支援御協力があったからだと、心より感謝申し上げます。

現在カオハガンの人口は徐々に増加しているにも拘らず島民の口腔内の状態は徐々に改善されてきています。これは、ＪＤＭの啓蒙活動が島民に浸透してきている証拠だと確信しています。カオハガン周辺の島々の約１４島からも患者さんが来られ、ＪＤＭの認知度も徐々に上がってきています。まだまだ患者さんからの治療の需要が高いので継続して活動してまいります。

国内では、NPO 法人 Japan Dental Mission　海外歯科医療ボランティア活動説明会を東京の新宿に於いて開催するなど、今後の活動を見据えて積極的に取り組んでいます。

今後もヴァヌアツとカオハガンの歯科衛生に対する意識の向上を目指し、気持ちを引き締め、活動を続けて参ります。

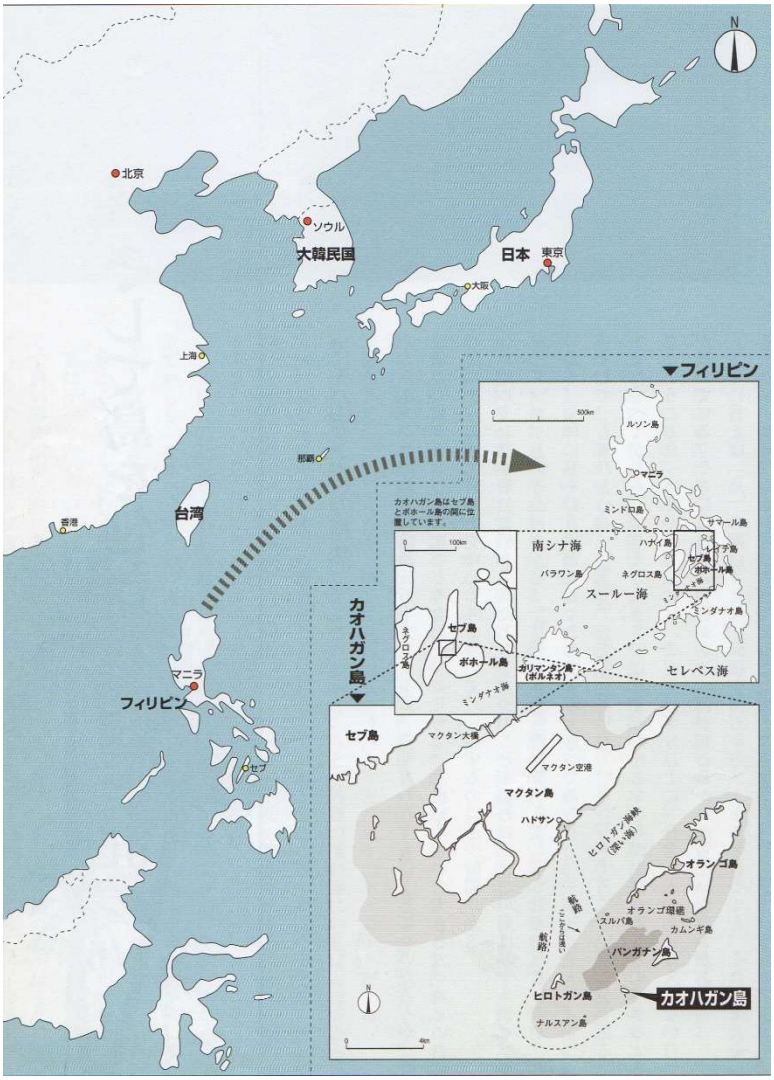
皆様方には変わらぬ御支援御協力の程宜しくお願い致します。

活動地紹介

ヴァヌアツ共和国

紹　　介：約８３の島々から成り立つ
人　　口：約２７万人
首　　都：ポートヴィラ（エファテ島）
言　　語：ビシュラマ語、英語、仏語
通貨単位：バツ（１バツ＝約１円）
宗　　教：ほとんどがキリスト教
平均寿命：７２歳
生 産 物：コプラ（ヤシ）、牛肉
活 動 地：ペンテコスト島

フィリピン共和国



紹　　介：７，１０９の島々から成り立つ
人　　口：約１億１００万人
　　カオハガン島の人口は約６５０名
首　　都：マニラ（ルソン島）
言　　語：フィリピノ語、英語、ビサヤ語
通貨単位：フィリピンペソ（１ペソ＝約２.５円）
宗　　教：ほとんどがキリスト教
平均寿命：６８歳
生 産 物：バナナ
活 動 地：カオハガン島

海外活動報告

ヴァヌアツ共和国ペンテコスト島

期間　　2018 年 7 月 11 日～7 月 19 日

参加メンバー

（左から）　川本　麻央(Dr)　向井　まち子(DH)　神農　明(Vo)　リリー(DH)　谷口　真結子(Dr)
ラッセル(Dr)　関根　淳(Dr)　沢田　宗久(Dr)　小西あゆみ(DH)　ローリー（政府関係者）
マイネ(Dr)　伊藤　玲(Dr)　鈴木　麻代（JICA 衛生士）平野　文興(DT)

活動内容

７月１１日（水曜日）

成田にて、沢田、関根、平野、神農が合流し、ヌメアへ。折りたたみ式のデンタルチェア、技工機材など滞りなく到着した。

７月１２日（木曜日）

先発メンバーはポートヴィラへ。

入国時に荷物検査で機材を開けられるも、MOH からの持ち込み許可が空港側に届いており、無事通過した。

その後ホテルに荷物を置きすぐに、DT 平野の技工士派遣プロジェクトのための、MOH（Ministry of Health 保健省 以後、MOH という）管轄の倉庫やセントラルホスピタルなどの候補地を視察した。

この日、羽田より伊藤、川本、小西、向井が合流し、機材やドネーションの品、食材などと共に、ポートヴィラに向けて出発した。

７月１３日（金曜日）

先発メンバーは、JICA 青年海外協力隊の DH 鈴木の尽力により、分刻みで動く政府の要人を一同に介し、会議を行うことができた。

後発メンバーと、ヌメアより谷口も合流し、計９名で夕食をとった。

７月１４日（土曜日）

DH 鈴木、ポートヴィラからの歯科医師ラッセル、マイネ、歯科衛生士リリーも合流し、飛行機の変更などはあったものの、朝８時過ぎにペンテコスト島に到着。

ゲストハウスに荷物を置き、活動場所となる教会で診療準備を行った。

中には、目隠しのためのしきりなどを設置してくれ、協力してくれる住民もいた。

夕方、コミュニティーの人々からの歓迎セレモニーが開かれ、生花の首飾りなどを贈呈された。

７月１５日（日曜日）

　ペンテコスト島での活動は今年が初めてであり、始めは全く患者が来なかった。

そこで、Dr 沢田、関根、ラッセルの３名が、パンギコミュニティーの家を歩いて一軒一軒訪問し、JDM の活動内容を説明してまわった。

すると、治療を受けるにはお金がかかるという誤った情報が流れていることがわかり、我々はボランティアである事を周知すると、治療を希望する住民が徐々に増えてきた。

そのため午後には治療やクリーニングを行うことができた。

義歯などの希望もあり、作製のための型取りも行った。

この日は悪天候のため、予定していたランワスコミュニティーへの訪問は中止とした。

７月１６日（月曜日）

　午前９時より、全員でパンギスクールへ行き、歯科検診の準備を行った。

その後 Dr 伊藤、川本、DH 小西、DT 平野は教会へ戻り、診療にあたった。

教会の入り口には前日にはなかった水道が、朝には設置されており、住民の友好的な感情がうかがえた。

その他メンバーは、パンギスクールでの歯科検診、国際文化交流、歯科教育を行った。

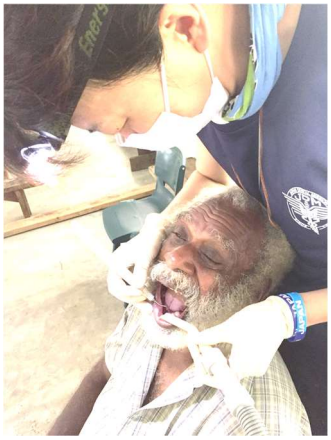
国際文化交流では日本の八尾市竹渕小学校の生徒が折った、折り紙やぶんぶん独楽などを提供し、また、ヴァヌアツの子供たちが折った、日本ではあまり見ない花や風車などの折り紙を持って帰った。

Dr 関根、Vo 神農から日本式の折り紙のレクチャーがあり、子供たちは紙飛行機を飛ばすなど大いに盛り上がることができた。

歯科教育では、MOH の歯科衛生士リリーが歯磨きと虫歯、歯周病の関係の話や、歯の磨き方などのレクチャーがあり、JDM から寄付した歯ブラシを使い実地指導を行った。

歯科検診で要治療の子供達をピックアップし、Dr 谷口、DH 向井が教会へ引き連れ、保護者の治療許可を得た子供たちから順に、治療を行っていった。

入れ歯作製希望者が後をたたず、日数が限られているため、皆なんとか工夫をし、その場で直接作るなど、希望を少しでもかなえる努力をした。



Dr 沢田、関根、JICA 鈴木、Vo 神農はその後保健センターを訪問。ここでは、助産施設がメインとなり、歯科診療が可能なスペースは存在しなかった。

保健センター周囲の土地管理者より、JDM が今後歯科診療所を建設する事があれば、使用できる土地を提供するという許可を受けた。

診療所建設の可否、予算、方法などを話し合うにあたり、Vo 神農は、専門分野であったため、現地担当者からも意見を絶えず求められ、引っ張りだこであった。

７月１７日（火曜日）

Dr 沢田たちは、スクールを訪問。歯ブラシの寄付、国際文化交流、歯科教育を行った。

Dr 関根より、齲蝕、歯周病について、MOH ラッセルよりブラッシング指導、最近ヴァヌアツで問題になっている子供の喫煙について、熱心な教育があった。

国際文化交流では折り紙のレクチャーを行った。飛行機、鶴の折り紙が好評であった。

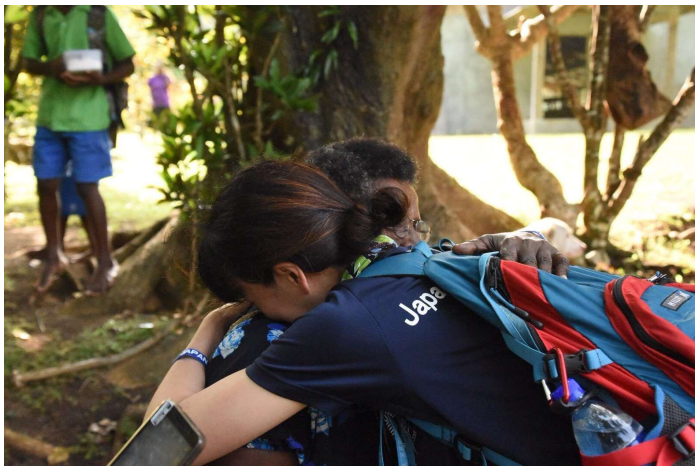
ヴァヌアツの折り紙も子供たちが披露してくれた。モチーフは花や船など身近にあるものが多く、動きがあり工夫されていた。午後は全員で診療にあたり、夕方には片付けを開始した。

７月１８日（水曜日）

朝食後、住民より、感謝の気持ちを現したいとのことで、教会でセレモニーが行われた。

ポートヴィラ行きの飛行機の時間の大幅な変更があり、出発までに時間ができたので、みなで空港へ向かう途中、観光名所である滝を見にいった。

その後さらなる飛行機の遅延はあったが、無事ポートヴィラに帰ることができた。



７月１９日（木曜日）

Dr 沢田らは MOH ローリー氏と最終ミーティングを行った。

ローリー氏は今年で定年退職となるため、JDM と公式にやり取りをするのは最後となった。

長年の感謝と慰労の意をこめて、JDM のみなでメッセージを書いた扇子型の色紙を贈った。

その後、Dr 沢田、関根、谷口、DT 平野、Vo 神農はヌメア経由、Dr 伊藤、川本、DH 小西、向井はシドニー経由で、帰国した。

治療結果

	15日	16日	17日	合計
抜歯	16本	35本	28本	79本
CR	8本	16本	31本	55本
ブラッシング	3人	0人	0人	3人
チェック	1人	1人	4人	6人
PDimp	2床	7床	0床	9床
PDset	1 床	2床	8床	11床
スケーリング	7人	11人	10人	28人
Hys 処	0本	3本	0本	3本
開窓術	0人	1人	0人	1人
人数	22人	46人	51人	119人

活動リーダー報告

時に大雨が降ったものの天候には比較的恵まれ、最終日までスタッフ全員健康に、不調にならず元気に活動できました。

今回は、ペンテコスト島のパンギー村を拠点に初の活動となりました。空港から４０分ほどの場所で、３００人ほどの集落であり、教会のスペースをお借りして、診療させて頂きました。初日は、私たちの活動が有料であるという噂が広まり、患者数が少なかったのですが、無料であることが認知されたことと、義歯の製作まで行なっていることが広まり、多くの患者さんが来院されました。

学校検診はパンギー小学校で 130 人の子供たちの検診を行い、治療の必要な子供には親の承諾を得た上で、治療を行うことができました。学校検診は今回１校のみ。次回は、学校検診も多く可能になるよう活動できるメンバーが増えることを期待したいとメンバー全員が願っています。

初めての場所での歯科活動であったため、不慣れな点も多く、水の確保や電源供給、作業上の準備に苦労した部分はあったが、村の人々が協力してくださり、円滑にミッションを実行することができました。

そして、毎晩活動後に反省会と今後の JDM の発展のために、活動メンバーからの現場の声として多くディスカッションしました。今後、充実した活動を継続していくには、なかなか難しいこともあるだろうが、現場で活動するメンバーが安心して活動できる環境整備や新規メンバーの募集方法の検討や多くの興味ある方々へのアピールなどが必要であり、当会ホームページのリニューアルなどを含めて、新しい行動もしなければならないと、より良い活動ができるように代表を含め、メンバー間で同じ釜の飯を食べながら熱く語り合いました。メンバーそれぞれ、この JDM の向上と発展を期待してのことであり、代表の作り上げた思いや活動に賛同しているからこそ、熱く語り合ったと思います。

今回の活動でいくつかの課題が見つかり、来年度の活動に向けてより充実した活動と村人の皆さんに喜ばれるように努めることを誓い、無事にメンバー全員が健康で安全に帰国の途に着きました。

伊藤　玲

フィリピン共和国カオハガン島

期間　　2018 年 11 月 21 日～11 月 26 日

参加メンバー

（上段左から）　倉橋 朋子(DH) 大澤 一雄(Dr) 崎山 克彦(オーナー) 津田 香織(DH)
佐々木 正志(DT) 吉村 理瑚(DH) 大森 愛裕(Dr) 矢澤 優菜(Dr)

（下段左から）　垣内 万智子(DH) 久保田 敬子(DH) 横山 伊央(DH) 沢田 宗久(Dr)
瀬野 耕司(Dr) 田岡 則子(Dr) 笹 智美(DH)

活動内容

１１月２１日（水曜日）

20 時にセブ・マクタン空港にて関西 7 人、関東 5 人、北海道と名古屋 2 人の計 14 人が集合。空港が改装され、集合場所も広々とした空間になっていた。

途中豪雨に見舞われたが、海は満潮でスムーズにカオハガン島に到着できた。

22 時頃食事とミーティングを行い、就寝。

１１月２２日（木曜日）

9 時頃、機材などセッティング開始。
今回は患者さんが非常に多く、すでに診療を待つ人々で長蛇の列ができていた。
特に抜歯が多く、治療は緊急性の高いものに限られた。
昼食時、Dr.沢田よりボランティア精神についてお話。午後は暗くなるまで診療が続けられたが、明日に持ち越しになる方も多かった。

１１月２３日（金曜日）

Dr.沢田はドネーションへ。
DH はテントで子供の検診と衛生指導を行い、Dr は重症の子供を優先的に治療を行った。
本日も島の内外よりたくさんの患者さんが集まり、延長して診療にあたった。

１１月２４日（土曜日）

午前中は 11 時まで診療、その後は撤収作業を並行して行い 12 時に終了した。
昼食の後、希望者はシュノーケリングへ。
15 時頃からポントグで運動会。リレー、玉入れ、綱引き、パン食い競争、大縄跳びを行った。子供たちが大勢集まり、大いに賑わった。
夕飯後は、崎山さんやホテルに宿泊の方も交えてタコ焼きパーティー。

１１月２５日（日曜日）

満潮時の出航に向け、午前１時半に集合し、島を出発した。空港に行く前に、セブ市内の屋台でお粥を頂き、パンを購入した。その後マクタン空港にて解散し、関空・成田組はマニラにて乗り換えて帰宅した。

リーダ総括

前回、台風の影響でカオハガン以外の人が来ることが出来なかった為か、今回はいつもにも増して多くの人が治療に訪れました。
バランガイハウスの前には朝の準備に行くと２，３０人、午後の準備に行くと２，３０人と人集りができているような状態でした。
今回のメンバーは歯科医６名、衛生士７名、歯科技工士１名とマンパワーとしては恵まれていましたが、診療は休み無く、定時に終わることはありませんでした。診療後、暗がりを帰ってシャワーを浴びることなく夕食となっていました。
他の島からわざわざ来た人は診療しないでは帰すことは出来ないと、メンバーそれぞれが頑張りました。メンバーの心意気に脱帽です。
診療は二日半と短い期間でしたが満足のいく活動が出来たと自負しております。
入念に準備をしてくれた日本のメンバー、いつもよくサポートしてくれる島民、快く受け入れてくれたカオハガンハウスのスタッフ、又この活動に関わって頂いたすべての人に感謝いたします。
又、島でお会いしましょう。

瀬野　耕司

データ

治療結果

	22日	23日	24日	合計
抜歯	175本	115本	32本	322本
CR	37本	45本	13本	95本
シーラント		79本		79本
SC	22人	13人	9人	44人
TBI・フッ素		35人		35人
チェックアップ	1人	1人		2人
義歯修理		5床	1床	6床
その他		1本（根治）		1本
人数	107人	212人	32人	130人

島別受診者

	22日	23日	24日	合計
カオハガン	11	23	17	51
パンダノン	35	26		61
パガンアン	20	24		44
ヒロトガン	5			5
マンダウェイ	4			4
パンダラウ	1			1
カブラン	31	40	8	79
小学校		88		88
マシンギン		8	4	12
ギルトガン		5	2	7
ナルスアン		1		1
マリバゴ		1		1
ボホール		1		1
クアミング		2		2
カンタロッサ		1		1
Alegna			1	1

期間　　2019 年 3 月 19 日～3 月 24 日

参加メンバー

（上段左から）佐々木　正志(DT) 瀬野　耕司(Dr)　工藤　武男　河内　光明(DT) 沢田　宗久(Dr)
河合李美(DH) ハル君(ゆう子さんの息子さん)　ゆう子さん(カオガハンハウス・マネージャー)
（下段左から）村越　花菜(DH)　古山　博子(Dr)　崎山　克彦(島主)　中辻　孝一(DT) 松本　有加(Vo)
高鹿　栞帆(DH)　倉橋　朋子(DH)

活動内容

３月１９日（火曜日）

大阪から７名、東京から４名がマクタン空港に集合した。

船のエンジンのトラブルのため船上で１時間ほど待つこととなったが、潮が高く順調にカオハガンに到着。夕食後、ミーティングをして就寝。今回は義歯作製が中心となるが、最終日、ラプラプ市が主催する式典にメンバー全員が出席とのことで、診療できる日が一日短くなり義歯のセットが心配された。

この式典はラプラプ市が長年に渡って活動してきたＪＤＭと沢田代表に感謝の意を表するために開催された。

３月２０日（水曜日）

９：００前には診療準備を開始。

午前中は義歯の印象採得を優先し、その後クリーニング、ＣＲ、抜歯とそれぞれに手分けして診療。今回は初参加のメンバーが多く若干の心配はあったが診療は順調に進んだ。心配は杞憂に終わった。

３月２１日（木曜日）

　義歯作製の予約をしていたカオハガン以外の人の来島が無く、患者を入れ替えるなどの変更はあったが、診療に滞りはなかった。

小学校でフッ素洗口を始めるため小学校を訪問。

小学校の校長先生はフッ素洗口に大変積極的であり一安心。

カオハガンハウスのスタッフの協力も仰いで新学期の６月から開始することとなった。

この日の診療も多忙を極めた。

３月２２日（金曜日）

　いつもであるが義歯を間に合わせるため定刻より早めに技工をスタート。

衛生士は小学校でＴＢＩ、チェックアップし、その後多くの歯にシーラントをした。

セブで勤務している衛生士の安藤さんが一日だけ合流して一緒にチェックアップ。

この日は通常の診療は勿論、義歯セットを終わらせ、荷物のパッキングまで終わらせなければならない。

そのため遅くまでの活動を予定していたが、メンバーの頑張りもあって、ほぼ定刻には診療は終了した。

夜は恒例のタコ焼きパーティーでひとしきり盛り上がり就寝。

３月２３日（土曜日）

　８：００ラプラプ市主催の式典のためカオハガンを出発。

予定より早く着いたためメンバーは思い思いに会場の Chateau by The Sea 周囲を散策。

大変美しい会場であった。

会場にはＪＤＭ、カオハガンハウス、カオハガン島に関わる人が約４０名集まった。

１１時過ぎから昼食を頂き、崎山さんのスピーチから会はスタート。

続いて、５４回に渡り長年活動してきたＪＤＭと沢田代表へ、ラプラプ市長代理、カオハガンの村長さん、小学校の校長先生のスピーチがあり、それぞれから感謝の言葉が贈られた。

カオハガンハウスから感謝状、ラプラプ市から楯が贈呈された。

最後に沢田代表がこれまでの活動の思いを語った。

集合写真の後、プロのダンサーの飛び入りもあって思いもよらない盛り上がりを見せた。

帰島が早くなったため、当初は予定していなかった運動会ができた。

賞品は無かったが子供たちは、いつもと変わらず元気だった。

カオハガン小学校の教諭からの感謝状

Japan Dental Mission is a blessing to Caohagan Community for conducting a free dental clinic. They helped the people of Caohagan selflessly and with a pure heart. The moment I stooped down in Caohagan and was assigned as a teacher, I was overwhelmed with the presence of JDM, because not all schools have this kind of opportunity. An opportunity that is so precious, whom every people were so thankful for them. We are so blessed that Caohagan Island was one of their recipients. It has been 27 years or 54 times to be exact that JDM visited Caohagan and give their full support, time and effort to give free service to the community.

We are so much grateful to Mr. Munehisa Sawada and to the entire JDM Team for your continuous support in dental care and provided excellent service to the children and the community of Caohagan. We do appreciate your compassion and concern. We felt that you have done more than just taken care problems of their mouth but also, you've made them feel at ease about coming to the dentist and more concerned about the dental health of their family. You have done your job with great care and consideration for the person you are attending to.

Twice a year we always anticipate the visit of JDM with open arms and smile people fall in line to have checkup and accept the free service given by this organization. Indeed, such activity will give SMILES on the faces of our community and also from the nearby islands.

Thank you so much JDM for coming up such noble deed.

Yours truly,
MARIA NINA AYING
Caohagan Teacher

Lapu-Lapu 市長と

崎山氏と

３月２４日（日曜日）

　潮の関係で２：１５AMに母屋に集合し島を後にした。

今回も飛行機までの時間がたっぷりあるので市場に行きお粥の朝食とパンを購入。

マクタン空港から東京組、大阪組に分かれそれぞれに帰国。メンバーの皆様、お疲れ様でした。

又、島でお会いしましょう。

島民との運動会

島別患者数

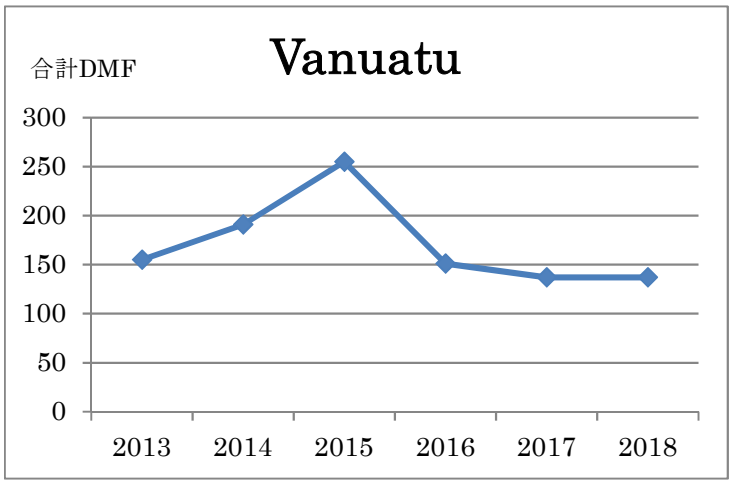
島別			
カオハガン	78 人	ナシンジン	25 人
パンダノン	10 人	ギルトガン	1 人
パガンアン	52 人	小学校	100 人
マンダウエ	8 人		
サバン	14 人		
ダンバンタイアン	1 人		
ヒロトガン	2 人		
ナルスアン	6 人		
アグス	12 人		
カブラン	19 人		
サンタロッサ	5 人		
マルドバ	2 人		

治療内容

日	3/20	3/21	3/22	合計
抜歯	51 本	113 本	88 本	252 本
CR	20 本	41 本	37 本	98 本
シーラント		103 本		103 本
SC	8 人	20 人	23 人	51 人
チェックアップ		1 人		1 人
D リペア	6 人		1 人	7 人
ナイトガード		1 人		1 人
D 調整		1 人		1 人
D 作成	印象	バイト	セット	11 人
受診者数	59 人	96 人＋ 小学校 100 人	90 人	245 人＋ 小学校 100 人

富田　真仁

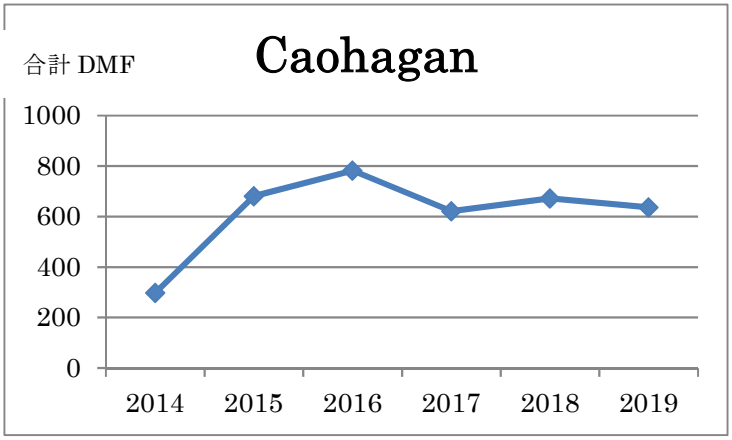
ヴァヌアツ共和国



データ	2013	2014	2015	2016	2017	2018
合計 / DMF	155	191	255	151	137	137
合計 / D	146	187	246	142	123	137
合計 / M	6	2	8	7	12	0
合計 / F	3	2	1	2	2	0
検査人数	230	440	424	444	404	270
DMFT	0.7	0.4	0.6	0.3	0.3	0.5

ヴァヌアツ共和国の DMFT は 1.2(1994 年)で、う蝕罹患率が低いです。口腔衛生教育の普及によるものではなく、後発開発途上国に指定されており、平均的な所得が低いため甘味を手に入れにくい状態と考えられます。JDM は 2017 年まで10数年タンナ島にて活動していました。タンナ島の小学校の DMFT は 0.3を維持しており、JDM の長年の活動の成果であると思われます。2018 年よりペンテコスト島での活動を開始しました。本年の結果としては、ペンテコスト島の DMFT はタンナ島に比べて高いと考えられます。今後、より積極的な啓蒙活動を行なっていく必要があると考えます

フィリピン共和国カオハガン島



年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019
合計 / DMF	298	681	782	621	672	636
合計 / D	256	552	708	541	599	620
合計 / M	9	93	25	10	26	5
合計 / F	33	36	49	70	47	11
検査人数	84	190	240	188	178	204
DMFT	3.5	3.6	3.3	3.3	3.8	3.1

フィリピン共和国の DMFT 4.4(2003 年)は世界的にみても高い数値です。(参考　日本:DMFT 1.1 ,2012 年)近年フィリピン共和国の経済発展は著しく、島内の雑貨屋でも甘味を入手容易な環境となって来ています。一方で、カオハガン島の DMFT は近年 3.5 前後を維持しており、フィリピン国内の平均より良好な結果を維持してます。

フィリピン共和国の 6 歳児 DMFT 8.4(2006 年)です。この数値は 30 代後半になると DMFT15.4(1998 年)まで増加します。幼少期からの口腔衛生の啓蒙活動、フッ素塗布をさらに積極的に行っていく必要があると思います。

JDM では、2019 年よりカオハガン島にてフッ素洗口の導入をはじめました。今後の DMFT 変化を追跡していきたいと思います。

国内活動報告

日　付	内　　容
2018 年 6 月 19 日（火）	大阪市中央区芦池連合振興町会において 「ボランティアと歯の健康について」　担当：沢田
6 月 27 日（水）	八尾市立竹渕小学校　授業 ５年生の３時間目　６年生の４時間目 「国際理解を深める為の授業」　担当：沢田、栗山
8 月 6 日（月）	大阪船場ロータリークラブ　卓話 「ヴァヌアツ帰国報告」日航ホテル　担当：沢田
10 月 18 日（木）	奈良ロータリーにおいて 「南太平洋におけるボランティア活動について」卓話 担当：沢田
10 月 27 日（土）	ＪＤＭ活動報告説明会並びに懇親会 東京新宿西「レアル　セミナールーム」で開催 担当：沢田宗久、伊藤玲、関根淳
11 月 14 日（水）	八尾市立竹渕小学校　授業 ５年生の３時間目　６年生の４時間目 「ヴァヌアツ共和国での医療奉仕活動を授業」　担当：沢田、岩崎
12 月 18 日（火）	大阪中央区開平小学校　職場見学（学校の授業の一環） 生徒６名と校長先生が澤田歯科に来院 診療室の案内と「ボランティア活動について」お話しをする 担当：沢田
2019 年 1 月 10 日（木）	大阪北区歯科医師会　清流会において 「国際奉仕活動にかける想い」 梅田東急レイホテル　担当：沢田
1 月 16 日（金）	大阪西南ロータリークラブ　卓話　担当：沢田
2 月 6 日（水）	大阪西南ロータリークラブにおいて卓話　担当：沢田
2 月 18 日（月）	大阪船場ロータリークラブにおいて、宮崎放送で作成されたヴァヌアツ共和国でのＪＤＭの活動の様子をムービーで観る 担当：岩崎寿英　沢田宗久
2 月 27 日（水）	八尾市立竹渕小学校　授業 ５年生の３時間目　６年生の４時間目 「ヴァヌアツ共和国での医療奉仕活動を授業」 担当：沢田、栗山、岩崎
3 月 15 日（金）	八尾市立竹渕小学校　卒業式　出席　沢田、栗山
3 月 28 日（木）	奈良・平城京ロータリークラブにおいて卓話 担当：沢田、大西富子

八尾市立竹渕小学校での授業

大阪市立開平小学校生徒の澤田歯科での職場見学

国際理解教育～ヴァヌアツ学習を通して～

八尾市立竹渕小学校
教諭　西田　朋広
　　木村　久美子

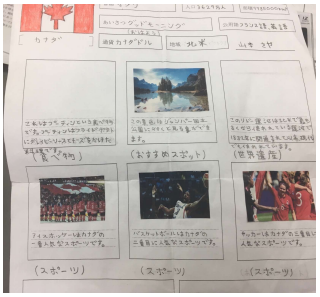
１．はじめに

八尾市立竹渕小学校では、「広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ること」を目標とした国際理解教育を行っている。その中で、学期に１度、澤田先生・栗山先生・岩崎先生に協力していただき「ヴァヌアツ学習」を行っている。実際に学習を通してみて、何度も現地に訪れて活動をしている先生方の話は具体的であり、児童の心に響いたと感じる。５年生から６年生にかけての２年間で学んだことは、これから進む人生の中で役に立ててほしいと願っている。

２．学習を進める中で

＜第１回＞

６月２７日
学習内容
・ヴァヌアツ・フィリピンの国旗について
・ＪＤＭの活動の目的や歴史、活動について
・ヴァヌアツやフィリピンの暮らしの様子や人々の様子　など



国旗の意味を知ることでヴァヌアツの国の歴史や特徴に触れることができた。特にヴァヌアツについては、緑色は緑豊かな国土を、赤色は独立闘争で流された血の犠牲を忘れずに国民が一致団結しようという決意を、黒色は土地の肥沃さとメラネシア人を、黄は平和とキリスト教信仰をそれぞれ象徴するということを知り、児童は興味を持った様子であった。

また、日本とは違った暮らしの様子や生活習慣なども教えて頂き、児童たちは驚いていた。第１回目の学習を終えて、児童からは他の国についても調べてみたいという感想が多くあった。そこで６年生３１名で１人１つの国を調べることにした。調べた国はカードにまとめていき、学級で発表を行った。児童は意欲的に学習に取り組んだ。

～国調べを終えた児童の感想～

世界の国々を調べてわかったことがあります。世界には肌や目・髪の毛の色がちがう人がたくさんいます。言葉も英語だけでなく、様々な国の言葉が使われています。そして、その国の文化があります。あまり見慣れない服装や、日本で　食べることのない物を食べる習慣があっても、その国の文化を理解することが大切だとわかりました。

＜第２回＞

１１月１４日
学習内容
・ＪＤＭの活動の動画
・ヴァヌアツの食文化・特産品・自然などについて
・ヴァヌアツからの贈り物の紹介・寄贈

今回はヴァヌアツのペンテコスト島で活動を行ったドキュメンタリーの動画を見せて頂いた。児童は映像を見ることで、ＪＤＭの活動のイメージをしっかりと持つことができた。また大切なのは歯の治療だけでなく、衛生環境が整っていない暮らしにどのように援助していくのかということも理解できたようだ。

またヴァヌアツからの贈り物を紹介・寄贈をしていただいた。大きな手作りのマットを見せて頂き、児童は驚いていた。ペンテコスト島ではマットは最高の贈り物であることも教えてもらった。マットは現地の小学生からの手紙や折り紙と共に竹渕小学校に寄贈していただいた。児童は嬉しそうに贈り物を見ていた。

澤田先生やＪＤＭの活動のおかげでヴァヌアツの子どもたちとつながる事ができた。

＜第３回＞

２月２７日
学習内容
・フィリピンでのボランティア活動の様子
・仕事について
・なぜボランティアをするか
・おりがみ作成

今回はフィリピンのカオハガン島での活動を紹介していただいた。また６年生は卒業式が近く、将来の夢について考える機会が多いので仕事について話してもらい、ボランティア活動についても語っていただいた。澤田先生のこれまでの人生を振り返りながら、「私は生かされた命である」、「何度も死にかける経験をした」「誰かのために生きる」と話して下さった。強い信念でボランティア活動を行っていることが児童も十分理解できたようだ。

また、現地の小学生に折り紙をプレゼントするためにみんなで折り紙をおった。

～児童の感想～

澤田先生の話を聞いて、すごいなと思うことがあります。「人のために尽くす」という言葉でした。自分がしんどくても人のために尽くすというのはとてもむずかしいと思います。

私は一生懸命頑張ってもできないと思います。また死にかけた時の神様の声の「お前はまだ死んではいけない、世のため人のため…」という事も心に響きました。人のために生きているという気持ちをよく理解したいです。感謝の気持ちも決して忘れてはいけないということがわかりました。

竹渕小学校では毎年１２月に竹渕ワンワールドという行事を通じて、国際理解教育を行っている。６年生はヴァヌアツ学習がきっかけでおこなった、世界の国調べで学んだことを発表した。また世界には経済的に貧しい国があったり、戦争などの影響で学校に行けない国があるということも伝えた。ヴァヌアツ学習でボランティア活動をしているＪＤＭにも触れ、自分たちが何をできるか考えた事も発表した。ユニセフの活動を紹介し、啓発活動も行った。

～６年生が各学年に伝えたかったこと～

私たちは子どもなので現地へ行ってボランティア活動をするのは無理ですが、困っている人に対してユニセフに募金して支援できることがわかりました。私たち一人一人の力は小さいですし、出来ることは限られています。でも、「困っている人を助けたい」「何かできることはないかと考えること」が重要だとわかりました。外国や日本という枠にとらわれず、世界は一つ、「ワン・ワールド」だということを考え、世界中の人と仲良くできたらいいなと思います。

３．学習後の児童の感想

・私は人を「助けたい」とか、思ってましたけど、あまりそのために行動していませんでした。しかし、「人のために行動」したら、多くの人が助かり、他の国の人々とも仲良くすることができるとわかりました。だから私は、これまでの生活を見直し、自分ができる事をやりたいと思います。私たちは歯が痛かったら、歯医者さんに行けるけど、行けない国もあります。だから、私は歯医者さんに行けることだけでなく他の事にも感謝しようと思いました。

・一番心に残ったのは、自分からヴァヌアツに行って歯の検診をしてあげようと思ったことです。自分は行った事のない国にお医者として行くのは行くのはちょっとこわくて無理です。だから行く事はすごいと思いました。外国に行く事はまだできないけど、自分でできることはしようと思いました。

４．終わりに

目標としていた「広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ること」に近づけた。特に多くの児童は「ちがい」を認めることが大切だということに気付くことができたと感じる。６年生は京都で外国人に英語でインタビューするなど、これからのグローバル社会で活躍するための活動を行った。小学校という基礎基本を学ぶ発達段階で国際理解教育は児童の成長に大きく関わっている。ヴァヌアツ学習を通して学んだことが、これから先の人生の大きな財産になっていくはずだ。竹渕小学校はこれからもヴァヌアツ学習を続けていきたいと考えている。

海外活動参加者感想文

向井　まちこ（歯科衛生士）

ヴァヌアツ　ペンテコスト

今回、初めてボランティア活動に参加させて頂き
本当に充実した日を過ごす事ができました。
それは、このチーム素晴らしいからだと思っています。初め参加された方、私もですがそれなのにだんだんとそれぞれの役割ができていたような気がします。ここの島の役に立ちたい良くしたいという気持ちが一緒だったからだと思います。
短い期間で一番良い治療を素早い判断で行っている Dr！サポートするスタッフ！このチームで活動できた事に感謝しています。
そして、またまだまだできていない自分に課題ができました。もっと、温かく迎えてくれた島の方々に歯科医療を提供できればと思いました。
また参加できる機会があったらと思います。
活動以外にも波の音を聞きながら、眠れた事！今までに見た事がない星☆と虹が綺麗だったこと！
海の入浴が🏊気持ちよかった事！そして、島の子が凄く可愛いかった事！
また、参加したいと思いました。皆さん、ありがとうございました😊

佐々木　正志（歯科技工士）

私が今回の活動に参加しようと思ったきっかけは友人がこの会に参加していてその話を聞いたからでした。
カオハガン島に着いて次の日、その海と自然の美しさに魅了されましたしそこに住んでいる住民の方がどんな生活をしているのかとても興味を持ちました。
そして診療所に着くとすでに多くの方が待っていてその期待の大きさに気持ちが引き締まりました。
治療は初めてずくしで他のメンバーに迷惑をかけたと思いますが限られた機材やスペースの中で精一杯の治療が出来たことがとても嬉しかったです。

またカオハガン島のこどもたちは無邪気で人懐こくてとても癒されました。
特に子供たちには継続した治療と口腔ケアの指導がとても大切だと思いました。
今回この島で活動するにあたって集まった素晴らしいメンバーの方々、準備してくださった JDM のスタッフの方やトッペルさん、よしえさん、ゆう子さん、島の方々に感謝です。
また機会がありましたらぜひこの島、カオハガン島に訪れたいです　ありがとうございました。

吉村　理瑚（歯科衛生士）

ボランティアに参加しようと強く思うようになったのは、2015 年のフィリピンを舞台にした邦画、クロスロードを観てからでした。その映画は青年海外協力隊の活動に焦点を当てたもので、ボランティアの本質とはなんなのか、活動が自己満足で終わっていないかなど考えさせられる映画でした。ボランティア自体、以前から興味のある分野でしたが、いままでは行動に移していませんでした。そんなわたしでしたが、今年思い切って挑戦してみようと決断し応募させていただきました。

ボランティア活動中、様々なことを学ぶことができました。まずはチームワークの大切さです。今回訪れたカオハガン島は、普段から歯科医療が機能していない島なので、自分たちが日常の診療で当たり前のように使っている物がなかったり不足していたりします。しかしながら、患者さんは途切れることなく常に列をなす状態。当然ですが、ひとりですべて診療から片付けまでを行うのは不可能で、チームメンバーのそれぞれが持っている技術や工夫を持ち寄ることで、島の人々に感謝される活動が可能になるのだということを肌で感じました。

次に、限られた時間で活動を行う難しさです。診療を行った 3 日間で 300 人程の現地の方を対応しましたが、それでも複数の治療を希望する人に対してひとつに絞るようにお願いしたり、学校の一部の子どもたちを検診できなかったということがありました。また、島に住む 10 代 20 代という若い年代の子どもたちが臼歯部だけでなく、上顎前歯隣接面にも齲蝕をつくっておりたいへんショックを受けました。聞くところによると島にある駄菓子屋などで甘いものを手に入りやすい状態になっていることが元凶のようです。生活が便利になってなんでも手に入るのはすばらしいことですが、その発展スピードに負けず歯科医療者のひとりとして島民に継続して歯や正しい食生活の大切さを伝え続ける必要性も痛感しました。現状の抜本的な改善には TBI 以外にもできることが多くありそうです。

最後に、今回の活動を「楽しかった」だけの自己満足で終わらず、学んだことを糧にこれからの活動で活かしていきたいと思います。今後、メンバーの一員として参加させていただく際はもっと役に立てるよう日々精進していきます。

横山　伊央（歯科衛生士）

参加目的

歯科衛生士の仕事が、ボランティアという形で誰かの役に立つことを１ヶ月ほど前に知り、応募に至る。目的意識は特に設定せず、行ってみたいという直感のままに参加しました。

カオハガン島について

成田空港から約５時間のフライトでセブ空港に着き、セブ空港から車で１時間弱揺られマクタンに到着。マクタンから船に乗り込み、さらに１時間ほどすると、目的のカオハガン島に到着する。移動時間は苦にならず、むしろワクワクの募る時間。それもこれもメンバーとの楽しい会話のおかげでした。そしてコーディネーター役のトッペルを筆頭に現地の方々のサポートもあり不安な思いは何もない。感謝の連続で冒険が始まる。
カオハガン島は人口約６５０人が生活している島で、広さは東京ドーム１個分に相当する。食事は海の恵みからいただき、電気は１７時から２３時までのみ使える自家発電で、生活用水は雨水を使用。６年制の小学校があり、高校や大学に通うための奨学金制度があるとのこと。

島民について

島に生まれた子どもたちは、生きていく術のすべてをおよそ１５歳までに体得する。(島の木々を使い自力で家を建てる方法、海に潜って魚を捕る方法、島で育てた豚や鶏の命をいただく方法など）食べ物は手つかずの自然や海から、自分たちが食べるものだけいただき、みんなで分ける。だから島民たちはいつも自然へ深い感謝の念を抱いてるとのこと。初めて会う私にも何の疑いもなく優しく振舞ってくださる。そして子供たちの人懐っこさは、思い返すと涙がでそうなくらいの感銘そのもの。

食事について

カオハガンハウスの母屋にて毎食いただく。海を目の前に、島民のシェフ達によるご馳走が並ぶ。豚肉やお芋系がよくでてきた印象。美味しかったなぁ。先輩方の差し入れのふりかけもあり、白米がすすむすすむ。毎食後のフルーツは、島でとれたココナッツオイルをかけると美味しさが倍増！お土産に決定！！
食事においての難点は、ハエとの格闘だけど、夜になるとその数は激減する。３日目あたりから、ハエに対しても寛容になれて気にせず食べられたのもいい思い出です。

島でのお水について

飲む用のお水は有難いことにミネラルウォーターをいただける。シャワーや手洗いのお水は蛇口をひねれば貴重な雨水がでます。驚いたのはトイレがボットン便所じゃないこと。バーをひねれば流れてくれるため、トイレの異臭はなし。お水に関して配慮することは、その使用量をどう最小限に抑えるか。5 日間で習得した節水スタイルは日本に帰っても続けようと思います。

診療について

私は歯石取りや小学生のシーラントを主にさせていただいた。診察が始まり、てんやわんや感も５人くらい診察すると慣れてくる。診察人数や診察内容はその時にならないとわからないため、誰が何するかは予め決め込みすぎず診察に当たる。このスタンスが各々の持ち味を十分に発揮できる理由なのかも。結果、全員がテキパキ。口腔内状態は、決して良いとはいえないが、それも豊かな生活背景あってのこと。う蝕に罹患してしまうのは、甘味飲食物の過剰摂取なのか、間食の頻度の問題か、ブラッシング方法の指導者がいないからなのか、はたまた歯ブラシ自体を持っていないのか、確実な原因は今の私にはわからない。いずれにしても何かお手伝いできないかなぁと思う。今回は患者数が多かったようで、保健指導までいけず。また参加した時はもう少し言葉を覚えて保健指導までしたいです。

チームメンバーについて

全員集合したのはセブ空港。その場での挨拶は各自でそこそこに。すぐに車へ荷物を搬入し移動。聞くと、メンバーの３分の２はカオハガン島ボランティアのリピーター。でも、車中の１時間「私は何回も参加してるのよ」的なドヤ顔する人は１人もおらず、全員気さくに話してくれて安堵感でいっぱいだったのはここだけの話（笑）
マクタンから船で移動となったらまさかの雨。雨具を持ってない私をメンバーがすぐ気遣ってくれました。足手まといになりたくない一心で「大丈夫です！」と強がってると、大きめの ポリ袋を出して、「これ被って、これで大丈夫」と穴をあけて被せて下さいました（涙）時刻は夜２２時の暗闇でも、私の目にはメンバーから後光が見えました。みんな優しい。楽しいエピソードや、ほっこりエピソードは山ほどあるけど、書ききれないので割愛。とにかく家族みたい。楽しい。優しい。あったかい。診療はシャキッ。そんなメンバーと５日間いれたことも最高でした。

今後の展望

私はクリーニング担当ではあったが、その場にいると EXT 患者や充填希望患者で溢れ、う蝕への罹患が高いことが伺える。因子となる甘味料摂取時のコントロールや歯口清掃による歯垢除去の必要性を定着させていくには、”継続したメッセージ”が鍵となるのではないか。
ゆうこさんとよしえさんに伺ったところ、歯磨きについて何かしら言うのはお母さん、むしろそれ以外はないと思うとのこと。 もし歯磨きの大切さについて情報発信源がお母さんのみだとしたら、他にポスター掲示やチラシなどを使って、訴えかけたらどうだろうか。ただ紙媒体を掲示するだけでなく、前歯がキレイな島民を表紙モデルとすれば、話題性や憧れの気持ちが湧いて、美意識の高い子供たちには多少なりともムーブメントが起きるのではないか。
ポスターデザインがもたらすイメージの深化や拡大の効果を使って、JDM が不在の間も歯磨きをすること自体の付加価値をあげられるような働きかけができたら…。なんて想像してみました。
今回の参加により、日本では体感し得ない、幸せな気持ちになりました。初対面の私に、優しくしてくれるメンバー。島民の皆さんの疑いのない真っ直ぐな愛情。力になりたいと自然と思えました。この活動を継続されている沢田先生はじめ、運営してくださっている皆様のおかげで、このような経験をすることができました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

松本　有加（歯科助手）

歯科助手の経験を生かして何かできないかと思い JDM の活動に参加させていただきました。
行く前は初めて参加するワクワク半分、私に何が出来るのだろうという不安半分でした。
活動では、歯式を書いたり、衛生士の方々や先生のお手伝い、器具の片付け準備などをさせていただきました。
診療所にはたくさんの方々が治療に来てくださいました。ほとんどの歯が虫歯で「全部抜いてほしい」という方。綺麗な歯がそろっていて「お掃除してほしい」という方。
先生方は子どもから大人までたくさんの抜歯をされていました。
歯がボロボロの方が圧倒的に多かったのですが、綺麗な方もいて、歯ブラシが出来ない、虫歯を予防出来ない環境なのではなく、本人の意識次第で歯は守れる環境なのだと感じました。
もっともっとブラッシングの大切さが広まって、「カオハガン島の人達は歯が綺麗だね」と他の島の人に言われる様になり、そこからどんどん周りの人達の口腔内環境が改善されていくようになれたらいいなと思いました。
活動を、終えて自分が島の方々の役に立てたのかはわかりませんが、自分にとっては本当に貴重で素敵な経験になりました。
穏やかで優しい島の方々と綺麗な海、美味しい食べ物に癒され、治療後にはたくさんのありがとうの言葉をいただきました。
参加させていただいて本当によかったです。
一緒に参加した仲間達もすごく素敵な方ばかりで、あっという間でとっても楽しい 6 日間でした。

津田　香織（歯科衛生士）

歯科医院を辞めて次の職場を探しているとき九月に北海道で地震がおきました。私のすんでいる札幌市西区でも 2 日にわたり停電と断水が起きました。そんなとき安平町でボランティアを募集をしていたため災害ボランティアとして 3 日間行かしてもらいました。ボランティアもおわり、今度は、歯科衛生士としてボランティアをできないか？とおもい、探して問い合わせしたら連

絡がきたため、ジャパンデンタルミッションに参加させて頂くことに決めました。ここでの歯科ボランティアは、想像を絶するものでした。日本だったら治療できるものもほとんど、抜歯だったからです。衝撃的でした。そして、残念でした。カオハガンと日本の子供は、なにが違うのだろうか？今、小中学校の検診にいっても虫歯がある子供は、ほとんどいません。日本の子供も甘いものは、たべます。歯磨きもきちんとできているかわかりません。そこでわたしなりに考えてみました。

1.島の子供は、学校でも家でも口のなかに甘いものが、はいっているのではないか？
2.はみがきをしない
3.虫歯のある大人がつかった、スプーンやフォークをつかうため、こどもに感染。
4.家族での歯ブラシの共有

では、どうしたらいいか？

1.はぶらしは、共有しない、大人ようでなく、子供用の歯ブラシをつかう
2.フッ素いり歯磨き粉をつかう。
3.フッ化物洗口。
4.11 月と 2 月に高濃度フッ素を塗布。
5.砂糖の量を減らす。

これについては、学校やいえでの保健指導が必要となります。

フィリピンのこどもたちからすこしでも虫歯がへり、抜歯が減りみんなが白い歯でいい笑顔がみられるといいなあとおもいます。

今回ボランティアに参加したのにわたしのほうが、カオハガンの方からたくさんのパワーをもらいました。そして心が洗濯されました。

カオハガン島の方、JDM のかた、本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました。また職場で、お休みがとれたら帰ってきます。

村越　花菜（歯科衛生士）

JDM の参加は私の今後の歯科衛生士の人生を大きく影響を与え、さらに自分自身の成長、発見、課題を見つける事が出来ました。私は今年の４月から歯科衛生士とは別のもう一つの夢であった世界一周旅行を実現しようと準備をしている所でした。その中で以前から海外ボランティアに興味があり、世界一周で回っている間に何か自分の資格を生かして力になりたい。という気持ちが高まり、今回 JDM に参加することで今後の発見が出来たらと思い参加に至りました。

参加前は不安が大きく緊張していましたが、澤田先生が“ボランティアは楽しんでやるもの“とおっしゃっていて、皆さんが楽しく話している姿を見て不安な気持ちはいつの間にか無くなっていました。

現地では自分が想像していたよりも口腔内の状況は良好とは言えず、今の自分のスキルの中で出来ることを探し診療中は一心不乱に手を動かしました。しかし患者さんの人数、限られた器具、機材の中で日本の診療のようには

いかず、考えさせられる事がたくさんありました。７歳の子供が永久歯を抜歯する事、一気に８本抜歯希望、健全歯が無い小学生、歯石で壁になっている青年とあげると切りがありません。そんな中、小学校へ行き TBI 指導もさせて頂きました。校長先生がとても協力的な方で今では学校内ではお菓子を食べる事は禁止。今後はフッ素洗口も行っていくとの事で、未来がどうなっていくのか楽しみです。

JDM の活動は口腔内だけではなく、現地の私生活も見ることが出来るのも魅力的でした。皆さん笑顔で、冗談を言って笑わせてくれたり、夜に星空の下で雑談したりと楽しい思い出しかないです。私がどこかで無くした眼鏡を小さい子供達が診療室まで持ってきてくれたことは、とても驚きました。心が優しく何もないところから楽しさを見つける事が出来るのは素晴らしいことだと思います。

今回の活動で日本との違い、歯科での問題点を感じると同時に新たに自分の知識と経験の乏しさを見つける事が出来ました。パワーアップをして戻って来たいと思います。そして歯科を通じいろいろな世界を見てきたいと思います。大変貴重な経験が出来たことや JDM メンバーの皆様に出会えたこと感謝しております。ありがとうございました。

河合　李美（歯科衛生士）

歯科衛生士としてずっと夢見ていた海外ボランティア。長期間のものしか知らず諦めていましたが、どうしても諦めきれずに検索して出てきた「Japan Dental Mission」(以下 JDM)は私にとって運命の出会いでした。

診療所に訪れた島民の口腔内を診ると、日本人との口腔内の違いに戸惑いました。そして何より乳歯が虫歯で崩壊状態、7 歳で第一大臼歯を抜歯せざるをえない子、第一大臼歯を抜歯済みの方が多いなど、現実を目の当たりにして愕然としました。診療所に遊びに来た子や島で出会った子の手にはお菓子が握られており、文化や環境で間食と歯磨き、虫歯はここまで違うのかと驚きました。こんなにも虫歯が多く、抜歯を希望される方が多い中で「私に一体何が出来るんだろう」と深く悩まずにはいられませんでした。その時に沢田先生から「自分に出来ることをすればいい。楽しんで活動したらいい。」と言葉を頂きました。私が出来ることは少なかったですが、歯磨きを楽しんでもらうこと、出来るだけ痛みは少なく綺麗になることの爽快感・喜びを感じて欲しい、出来るだけ不安は取り除きたい、気軽に歯医者に足を運んで欲しいと願いを込めて接していきました。歯石が壁のようについて歯肉も腫れている中での SC はきっと痛かったと思うのに、みんな最後は笑顔で感謝してくれたこと。最初は怖がっていた子も楽しんで SC や PMTC、歯磨きが出来たこと。診療所を出たあとも名前を呼んで駆け寄ってくれた子供たちのキラキラした笑顔。私が出来ることを行ったことで、島民から与えられた沢山の温かさは日本に帰った今でも私の中で輝いており、一生忘れられない素晴らしい経験となりました。

現在の日本は虫歯の減少や喪失歯の減少など予防歯科が浸透しています。歯を磨くことの大切さをみんなが知っていることは、さまざまな方の地道な努力の賜物です。これからカオハガン島の小学校でフッ化物洗口が始まるこ

とで子供たちの未来がきっと明るいものになるであろうと期待しています。そしてその未来づくりにこれからも関わっていきたいと強く思いました。

沢田先生をはじめとする JDM の皆様、カオハガンハウスの皆様に出会えたこと、関西にも関東にも志同じく熱い想いを持った仲間が出来たこと、本当に嬉しく思います。

皆様と一緒に活動することができたことをとても光栄に思います。本当に本当にありがとうございました！！

古山　博子（歯科医師）

今回、以前より興味のあった海外ボランティアに、JDM を通じて参加しました。

私は、東南アジア旅行が好きで過去に何か国か旅をし、様々な国で現地の方に歯科医療の現状を聞き、歯科医療を受ける機会に恵まれない方々の力に少しでもなれないかと、ずっと考えていました。

そんな中で、JDM にてヴァヌアツで活動された歯科衛生士さんと出会ったことをきっかけに、今回のカオハガン島での活動に参加することとなりました。

実際にカオハガン島で島民の方の口腔内を拝見して、成人も子供も日本では滅多に見ないような口腔内の方が多く、覚悟はしていましたが、現実に圧倒されてしまいました。

また、日本で訪問診療に携わっている私は、歯科診療所以外での治療には慣れているつもりでしたが、殺到する患者さんを前に余裕を失って、ただただこなすような診療に終始してしまい、笑顔で患者さんに接することが出来なかったと反省しています。

そんな余裕のない私でしたが、上顎中切歯コンタクトカリエスを充填したことに喜んでくれた患者さんが何度も診療所に会いに来て「ありがとう」と言ってくれたり、島内で会った時に私の名前を呼んで手を振ってくれたり、大泣きの中で抜歯した子供が笑顔で駆け寄ってきてくれたりと、歯科医になってからこんなにうれしいことがあったかなと、涙の出る思いでした。

帰国してからも、しばらくは思い出し泣きをしてしまいました。

今回の活動で、私はほとんど CR ルームを担当していたのですが、次回参加する際は抜歯や義歯補綴でも貢献したいです。

また、歯科診療だけでなく、島民の子供たちとの運動会をできたことが本当に素晴らしい体験となりました。

子供たちは本当に純粋で素直で、澄んだ瞳のキラキラした笑顔で楽しんでおり、心が洗われました。

そして今回は、初参加にも関わらず沢田先生のラプラプ市長からの表彰式にも参加させていただき、崎山さん、市長代理、カオハガン島の村長、島の小学校の校長先生からの沢田先生への感謝の言葉を聞いて、続けることの大切さと難しさを考えさせられました。

最後になりますが、沢田先生を始めとする今回一緒に活動した 10 人の素晴らしいメンバーの皆様、私は皆様に助けていただき、6 日間を無事に過ごすことが出来ました。

6 日間で、皆様のことが大好きになりました。ありがとうございました。

また必ず JDM の活動に参加します！

笹　智美(歯科衛生士)

「カオハガンでの活動に参加して」
私は 2018 年 11 月の活動に参加した歯科衛生士です。
当時、歯科衛生士として目標を失っていた私は、他の仕事への転職も考えていました。そのような時、偶然、JDM の HP にたどり着きました。
正直それまでボランティア活動をした事もなく、こちらの団体の存在すら知りませんでした。出発までぎりぎりのタイミングだったのですが、日程的に参加できる状態だったので、行ってみない事には何も始まらないと思い、思い切って参加してみる事にしました。
申し込んではみたものの未知なる環境に自分が適応できるのか、ボランティア活動の経験がないのに、お役に立つ事ができるのか…などと不安になるばかりでした。
しかし、いざ活動を始めてみると、出発前まで不安だった事が嘘のように、楽しく毎日笑って過ごす事ができました。今回の活動は私にとって何かをしてあげて人の役に立つというよりも、むしろ現地の方の心の温かさに自分自身が癒されました。片言の英語、片言のビサヤ語でのコミュニケーションでしかも限られた器具や機材で処置を行う事しか出来ないのに、患者さんからは「ありがとう」とう言葉をかけてもらったり、何も言わずにお手伝いをしてくれる子供たちの姿を見たり、一緒に参加した皆さんに助けられながら活動を行う事でチーム医療の大切さを再認識する事ができ、やっぱり、この仕事が好きだな、これからも歯科衛生士という仕事をやっていこうという活力をもらう事ができました。心の栄養補給が出来た、とても有意義な活動だったように思います。機会を見つけて、また参加したいと思っています。ありがとうございました。

高鹿　紫帆(歯科衛生士)

ボランティアをしたいと小学校の頃から思って、衛生士の資格を活かして活動できる団体を探していて見つけたのが JDM でした。東京での活動報告会で話を聞いてからボランティアの日まで待ち遠しかったです。
　初日は診療所に着くと島民がすでに並んでいて驚いたのを覚えています。さらに口腔内をみると衝撃でした。子どもたちの乳歯は虫歯だらけで、大人の方は臼歯がなかったり、まだ若いのに前歯部に入れ歯を入れていたり、歯石が多量に沈着していたり、様々でし

た。日本ではほとんど診ることのない口腔内で衛生状態は良くなかったです。

カオハガンでの治療は限られていて、抜くか詰めるかの選択しかありません。まだ小学生の子供たちが６番をなど永久歯を抜歯するという事実を目の当たりにし、心が痛みました。島民たちの歯に対して意識を変えたい思い、２日目はＴＢＩを希望しました。言いたいことを伝えられないもどかしさはありましたが、小学校の校長先生の協力のもと行うことができました。子どもたちが歯ブラシを持ちながら真剣な眼差しで、そして楽しそうに話を聞いてくれたのでとてもやりやすかったです。決して上手なブラッシン指導ではなかったですが、小学校以外でも歯磨きの習慣を身につけるひとつのきっけかけになってもらえると嬉しいです。

カオハガンで数日過ごしたことは私の人生で忘れられない経験となりました。初めてのボランティアでご迷惑をおかけしたと思いますが、沢田先生をはじめメンバーのみなさんとカオハガンのスタッフの方がサポートしてくださったので、なんとかやりきることが出来たと思っています。また、島民の心の豊かさと人間性に感銘をうけました。カオハガンに必ず戻ってきて、島民の方たちのためにJDMのメンバーとしてまたボランティアをしたいと心から思いました。そして、今回参加したことで衛生士としてのモチベーションもあがりました。次回参加するときは自分の出来ることを増やし、今回以上のボランティアがきるように日々の衛生士業務に邁進してきたいと思います。

有意義な時間を過ごせたことを心から嬉しく思います。本当にありがとうございました。

2019 年度 海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっております。現地でのお仕事（活動）は、医療活動に限らず多種多様ですので、どなた様でもご参加可能です。
皆様のご参加をお待ちしております。
参加申し込みは当会ウェブサイトからお願いします。
http://www.japandentalmission.org

ヴァヌアツ共和国

チーム名	日　程	締切日
７月ペンテコスト島	２０１９年７月１１日～１９日	２０１９年６月２０日

フィリピン共和国

チーム名	日　程	締切日
１１月カオハガン島	２０１９年１１月２日～６日	２０１９年１０月８日
３月カオハガン島	２０２０年３月１８日～２３日	２０２０年２月２４日

参加費用

科　目	ヴァヌアツ共和国 金　額	フィリピン共和国 金　額
航空運賃＊１	約２５万円	約８万円
滞在費	現地宿泊費、食費等	
海外旅行傷害保険代	希望者のみ各自負担	
ユニフォーム代＊２	３千円	３千円
合　計	約２６万円	約９万円

＊１：航空運賃は、時期により変動します
＊２：持っていない方のみ

ジャパン　デンタル　ミッションについて

Year	沿　革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてヴァヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に“ヴァヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、ヴァヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらう事になり、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
	ヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン　デンタル　ミッション」に変更
2004	ヴァヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
現在に至る	

ジャパン　デンタル　ミッション活動方針

1.　歯科医療活動

●ヴァヌアツ共和国における歯科医療活動

ペンテコスト島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。

また、病院の周辺の小・中学校に行き、歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

●フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。

島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで

歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い、歯の磨き方を指導しています。

2.　文化交流活動

●絵画などの交換

ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行っています。

また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とヴァヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。

その他、日本の伝統的文化を基に交流を行っています。

3.　生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

●文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、

学業支援や健康促進を考えています。

●運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

4.　青少年育成

精神的に問題を抱えた人達に海外活動に参加してもらい、生きることへの活力を養うための

キッカケ作りをするお手伝いをしています。

協力者名簿

- (株)アド・ダイセン
- アベ・ラベリング(株)
- オーエム歯材(株)
- 大阪歯科大学　口腔衛生科
- 大阪市立開平小学校
- 大阪市立昭和中学校
- 大阪市立高津小学校
- 大阪市立玉造小学校
- 大阪市立中央小学校
- 大阪市立中大江小学校
- 大阪市立南大江小学校
- 大阪市立南小学校
- 大阪船場ロータリークラブ
- 大阪南太平洋協会
- 大阪府歯科医師会
- 尾崎歯材(株)
- 川西市歯科医師会
- 関西国際交流団体
- 関西学院中学部
- 清原(株)
- 共栄社化学(株)
- クリエイト(株)
- グラクソ・スミスクライン(株)
- 国際ソロプチミスト大阪-梅田
- コクヨ S&T(株)
- サクラクレパス(株)
- 沢井製薬(株)
- 笹野電線(株)
- 澤田歯科
- サンスター(株)
- (株)システムつう
- (株)ジャックス
- シンク(株)
- 甚田会計事務所
- ｽﾎﾟｰﾂﾈｯﾄﾜｰｸｼﾞｬﾊﾟﾝ
- 住之江歯科医師会
- スモカ歯磨(株)
- セイコーエプソン(株)労働組合
- セキセイ(株)
- 全日本ブラシ工業協同組合
- 大日本除虫菊(株)
- 大平工業(株)
- 太洋旅行(株)
- 嶽北歯科
- タナベスポーツ(株)
- 株式会社ツサカ
- つるや(株)
- トキワ(株)
- 有限会社トリビ
- ナカガワ(株)
- 南総工業(株)
- 西澤歯科医院
- ニッタハウス(株)
- 日本歯科医師会生涯研究課
- 根来(株)
- 白水貿易(株)
- ハグルマ封筒(株)
- (有)ハマダデンタルサプライ
- (株)林
- 樋口歯科医院
- 平田歯科医院
- 不二印刷(株)
- ﾍﾞﾘﾃｯｸ・ｱｲｺﾆｯｸｽ・ﾍﾞﾝﾁｬｰｽﾞ(株)
- 蛍印刷(株)
- モリタ(株)
- 八尾市立西山本小学校
- 八尾ロータリークラブ
- 八千代オート(株)
- 山貴産業(株)
- ユー・エフ・オー(株)
- 陽春園(株)
- 吉竹歯科医院
- DENTRADE
- Greenpath Corporation
- JICAヴァヌアツ支所
- NPOセンター
- TKX(株)
- UHA味覚糖(株)

本年度ご寄付を頂いた皆様(敬称略)

- ・大阪船場ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞ
- ・奥田　康子
- ・斧原　周子
- ・片岡　清夫
- ・金本　裕光
- ・川田　修弘
- ・工藤　武男
- ・小松　史枝
- ・阪根　新
- ・佐々木　孝子
- ・佐藤　道子
- ・澤田歯科
- ・沢田　宗久
- ・神農　明
- ・舘野　征子
- ・田中　輝男
- ・谷川　育子
- ・段上　昇平
- ・段上　浩美
- ・椿原　良憲
- ・西村　文延
- ・藤本　茂子
- ・守下　雅美

役員紹介

代表理事

沢田　宗久	澤田歯科（歯科医師）

副代表理事

栗山　雅行	ﾍﾞﾘﾃｯｸ・ｱｲｺﾆｯｸｽ・ﾍﾞﾝﾁｬｰｽﾞ㈱　代表取締役（ボランティア）

理　事

河内　光明	澤田歯科　（歯科技工士）
上崎　秀美	（歯科医師）
田中　良明	上り口歯科医院（歯科技工士）
小西　あゆみ	（歯科衛生士）
吉井　照子	（ボランティア）
富田　真仁	富田まひと歯科（歯科医師）
倉橋　朋子	塩井歯科医院（歯科衛生士）

監　事

甚田　隆康	甚田総合会計事務所　所長
北野　克己	株式会社北野商店　代表取締役

2019 年 6 月 8 日発行　発行者：NPO 法人ジャパン デンタル ミッション
〒542-0085　大阪市中央区心斎橋筋 1-5-28　心斎橋コアビル　澤田歯科内
TEL：06-6252-0118
URL：http://www.japandentalmission.org　E-mail：info@japandentalmission.org
＊本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを堅く禁じます。

ヴァヌアツ ペンテコスト島